

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	社会福祉法人ジェイエー長野会 佐久穂町障害者福祉施設 陽だまりの家 放課後等デイサービス		
○保護者評価実施期間	令和7年 1月 17日		～ 令和7年 2月 14日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	17名	(回答者数) 13名
○従業者評価実施期間	令和7年 2月 3日		～ 令和7年 2月 14日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4名	(回答者数) 4名
○事業者向け自己評価表作成日	令和7年 3月 21日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	・同施設の事業と連携が取りやすい	・同法人内に、就労継続支援B型、生活介護、地域活動支援センター、相談支援事業がある。就労継続支援B型や生活介護では、成人の利用者さん達との交流する機会を設けることで、放課後等デイサービス卒業後のイメージを掴むことにつながる。	・卒業後のイメージを掴むために、選択肢のひとつとして同法人施設の行事等に参加したり、交流する場を設けていく。
2	・施設は大きな道路に面しておらず、園庭で安全に活動できる	・遊び場として砂場を設置したり、蜂の巣の駆除や木の枝の剪定をしたりして、安全に活動しやすい環境を整えている。	・転倒リスクを下げるためにも砂利だけではなく、コンクリートや芝生の活動場所を設置する。また、構造化された仕組みを取り入れ、危険な箇所への立ち入りを再度明確化にし、注意を促していく。
3	・地域に開かれた施設	・流しそうめんや、焼き芋会を開催し、同施設内の地域活動支援センターや相談支援、ボランティアさん、地域住民に声掛けをし募った。	・現在、交流をしている地域中学校の福祉委員会とも連携し、行事以外の機会を設けて活動を増やしていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・開所時に施設改修を行なったが、活動室内の環境設定を季節に応じて変更しなければならない。	①夏季：クーラーや扇風機で冷気を送るが、西日により室内温度が高くなってしまふ。 ②冬季：活動室のうち1室は床がフローリングのため、足元が冷たくなってしまふ。	①西日が差し込む窓側に日除けを設置し、日が入らないように対策をする。 ②フローリングを絨毯にし、冷気が足元から入らないように対策する。
2	・プログラムが固定化されてしまっていることがある。個別、集団の活動ごとに分かれて活動することが難しい場合がある。	・個々の特性に応じた支援を提供していけるように努めているが、固定化された活動内容になってしまう。適切なアセスメントや定期的なモニタリングの機会を逃してしまっていることが要因として考えられる。	・個別課題や支援員との活動をする時間をもつことで、集中して取り組む力を養う。行事や2人から3人の小集団での活動を企画し、コミュニケーション力を養う。
3	・保護者の方へのペアレントトレーニングや、保護者の方向けの研修等を行なえていない。	・支援員のスキル不足により、適切な助言や研修等の機会を逃していたことが要因として考えられる。	・家庭、学校、放課後等デイサービス、関係機関と情報共有しながら支援をしていくなかで、家庭との協力体制は不可欠と考える。今後、支援を継続していくなかで、支援員の研修や勉強会等を開催し、保護者向けに行なえるようスキルアップを図っていく。